

## 日本品質管理学会の活動と使命



早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授  
永田 靖

第51期に引き続き、第52期の日本品質管理学会会長を拝命しました早稲田大学の永田靖です。

第51年度もコロナの影響を受け、行事のほとんどはオンラインでした。オンライン行事の運営・参加に慣れてきたこともあって、多くの行事を企画し、多くの方々に参加していただきました。講習会等はオンラインでの実施にメリットを感じています。参加者が出張しなくても気軽に参加できるからです。一方、研究発表会やシンポジウムの場合、対面による交流や質疑はかけがえのないものです。第52年度は、是非とも、対面での実施を願っています。

第51年度は、研究発表会・シンポジウム・講習会等の主要な活動は例年通りに実施しました。重点課題としたいくつかのトピックを取り上げます。①研究発表会を充実させるため研究発表会実行委員会を発足させました。②学会誌の見直しの取り組みを継続的に検討しています。特に、英文誌 Total Quality Science を国際的にステータスの高い学術誌にすることを目指しています。③理事会の後に支部活動連絡会を開催し、情報交換に努めました。④JSQC 規格の9本目として「TQMの指針」を発行しました。例年以上の講習会を開催し、多くの方々にご参加いただきました。⑤第44年度会長の久保尚武氏が提唱された Japan Association for Quality (JAQ) の構想が具体的にまとまり、設立できる見通しになりました。⑥ Asian Network for Quality の20回目の Congress が2022年10月にオンラインで開催されました。2023年からの2年間、日本が議長国に選ばれ、山田秀先生（慶應義塾大学）が議長に選出されました。2024年には慶應義塾大学で Congress が開催される予定です。⑦品質工学会との連携を深める活動を行ってきました。特に、商

品開発プロセス研究会を立ち上げ、共同研究を行ってきました。また、横幹連合コトづくりコレクションに「タグチメソッド」を申請し、受理されました。

次に、日本品質管理学会の使命を考えたいと思います。それは、企業・組織の成功例・失敗例を抽象化・一般化・理論化し、今後、多くの企業・組織が応用できる考え方・方法論にまとめ上げることです。

「イノベーションのジレンマ」の提唱者として有名なクリステンセン氏の著書『ジョブ理論』に次の一節があります。“アカデミックな場に身を置く私は、特別な知識もない業界や組織のビジネスが抱える課題について意見を求められることが年に何百回とある。それでも見解を述べることができるのは、何を考えるかというより、どのように考えるかを教えてくれる、理論の詰まった道具箱を持っているからだ。”

本学会では、まさにこのような方針で、世界に誇れる考え方・方法論を提示してきました。今後、世の中に新しい技術や考え方、事件が出現し、これまでは異なる価値観や問題意識がますます登場するでしょう。これらに対応できる品質管理の「理論の道具箱」を開発・整備・普及していく必要があります。

ここ数年、学会員数は減少してきました。しかし、賛助会員数は増えています。同規模の他学会と比較しても、日本品質管理学会の賛助会員数は非常に多いです。産業界から本学会への期待度は高いです。上述した学会の使命を果たしていかなければなりません。賛助会員であることが「品質」を大切にしている証だと感じていただける学会にしたいです。

学会はサークルのような存在です。学会員の皆様は、学会活動に積極的にご参加いただき、仲間とともに品質立国を目指していただきたいと存じます。